

## 2026年度賃金引上げ及び夏季手当、会社の低額回答に対する怒りを結集し、安全で安心して働ける職場をつくり出す水戸地本声明

JR東労組水戸地本は、要員不足や融合と連携により増え続ける働き度の現実と相次ぐ輸送障害への対応、止まらない物価高による生活苦の現実と踏まえ、要求実現に向けて総対話や春闘メッセージ行動、水戸・東京春闘総決起集会を開催し、2026JR総連春闘のたたかいをつくり出した。

私たちの要求は、ベア一律18,000円、夏季手当3.2ヶ月+5万円であるが、3月12日に示された会社回答は、ベア平均3,271円、夏季手当2.9ヶ月という要求とは程遠い低額回答であった。団体交渉内では、ベースアップと新賃金制度変更に伴う1万円増額は性質が別物であることを議論したが、会社は全体の平均引上げ額43,125（平均11.36%）と宣伝した。私たちが訴える労働実感・生活実感より、大井町トラックスをはじめとした施策優先の経営姿勢であり、低額回答に納得できるものではない。

会社回答に対して行った本部緊急アンケートには24,000件の意見が寄せられた。「JR北海道やJR西日本よりも営業利益が多いのに、低額なのは情けない」「物価上昇は一緒なのだから、ベアも一律であるべき」「人事賃金制度の賃金改善を前面に押し出した回答であった」「ベアの内容がわかりづらい。そもそも1万円の増額は賃金制度変更のため、会社都合である」「夏季手当は扶養手当等がなくなるため、昨年より手取りが低くなる」など怒りや否定的な意見が多く出された。これらの職場現実をもとに本部は緊急再申し入れ交渉を行った。

緊急再申し入れ交渉において、①組合員・社員の奮闘と努力を経営幹部は受け止め考慮要素とすること②制度改正とベアと昇給は性質が異なり別物であること③ベアは労使でその都度団体交渉での議論を経て決定していくこと④人事賃金制度の改正は今後の費用を抑制するべきものではないこと⑤来年以降、制度改正による職務能力給の引上げや各種手当等の引上げを示さないこと⑥平均3,271円のベアを今後のベアの基準にしないことを労使で確認した。しかし、3月12日に示された会社回答を修正するまでには至らなかった。会社は交渉の中で『「ベアは10%引き上げる」「夏季手当は過去最高額」という肯定的な意見が多い』と回答した。この経営陣を下支えしているのが社友会であり、同じ文言が社友会の掲示にも記されている。不満を抱えても、社友会会員が何も行動しないことで、私たちの要求が実現せず、低額回答しか示さない会社がつくり出されてしまっている。この現実を変えていくことが必要である。

### JR東労組組合員の皆さん！

賃金交渉を粘り強く最後まで議論出来ることや、労働条件や労働協約で保障できるのはJR東労組組合員だけです。今こそJR東労組の必要性を議論し、未加入者や他労組組合員へ結集を呼びかけよう！そして、職場の労働条件を向上させ、安全で働きがいのある職場を実現していくために全組合員が団結していこうではないか！

2026年3月23日  
東日本旅客鉄道労働組合  
水戸地方本部